

到達目標

1

肝腫大をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。

Point

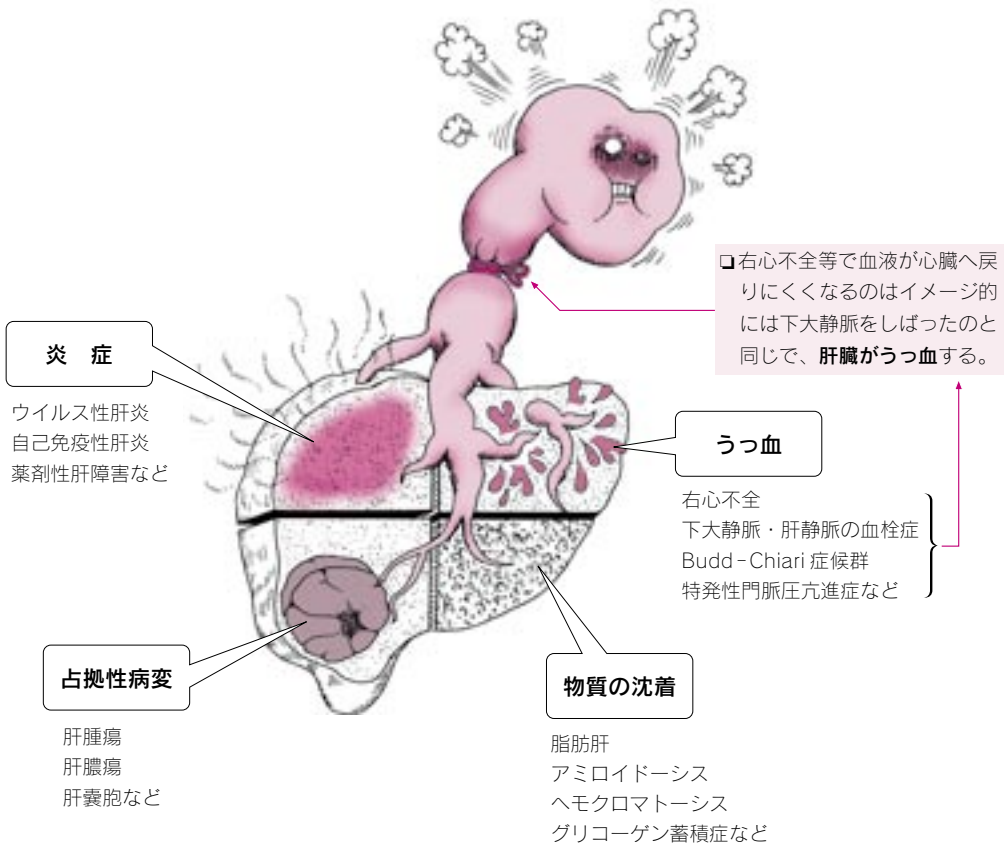
□ 肝腫大を呈する病態としては以下の4つがあげられる。

- ①炎症 —— 肝炎など
- ②うっ血 —— 右心不全
- ③物質の沈着 —— 脂肪肝、アミロイドーシス
- ④占拠性病変 —— 肝腫瘍、肝膿瘍

□ 肝腫大を呈する個々の疾患を覚えるのではなく、上記の4つの病態を押さえることに重点をおく。

的を射た Point 解説とユニークで印象的なイラストの組合せにより、難しい知識の習得が容易になっています。

図7 肝腫大を起こす4病態



□□ 76



肝腫大を認めないのはどれか。

- A 急性肝炎
- B 劇症肝炎
- C 肝膿瘍
- D 右心不全
- E 臍頭部癌

質の高いオリジナル新作問題を多数収録。
必要な知識を最小限に絞り込んだ解説です。
医師国試の基礎知識の整理にも最適です。

□ 解法ガイド

肝腫大は、炎症細胞の浸潤、うっ血、胆汁うっ滞、腫瘍や膿瘍等の占拠性病変 (space occupying lesion ; SOL)、網内系機能亢進などで生じる。

□ 選択肢考察

- A 急性肝炎は肝細胞の腫大や炎症細胞の浸潤で肝腫大を認める。(○)
- B 劇症肝炎ではそれまで急性肝炎として腫大していた肝臓が、過度の肝細胞の破壊で萎縮して腹壁上からは触知されなくなる。(×)
- C 肝膿瘍は、肝臓内の膿瘍形成で肝臓は腫大する。発熱、腹痛、肝腫大が特徴である。(○)
- D 右心不全では下大静脈さらには肝静脈から肝臓にうっ血し、うっ血肝による肝腫大を認める。(○)
- E 臍頭部癌では肝臓内の胆管の胆汁うっ滞により肝臓が腫大してくる。(○)

解答：B

□□ 77



肝腫大はあるが脾腫大を伴わないのはどれか。

- A Budd-Chiari 症候群
- B 伝染性単核球症
- C von Gierke 病
- D Gaucher 病
- E 慢性リンパ性白血病

CD-ROM に収録した問題は、問題番号のすぐ下に CD マークを入れてあります。
CD-ROM には 180 問を収録しました。

□ 解法ガイド

肝脾腫は、網内系機能亢進・網内系腫瘍、うっ血、肝硬変による門脈圧亢進症などで認められる。

フォン ギエルケ
von Gierke 病は糖原病 Ia 型で、グリコーゲンが肝細胞に蓄積するために肝腫大を認めるが、肝硬変や門脈圧亢進症を伴うわけではないので脾腫大は認めない。

□ 選択肢考察

- A Budd-Chiari 症候群は肝静脈もしくは肝部下大静脈の閉塞により肝うっ血をきたし、腹水や門脈圧亢進症などを生じる。長期にわたるものでは門脈圧亢進症が著明となり、脾機能亢進症を合併する。(○)
- B 伝染性単核球症は、思春期～青年期に好発する、発熱、咽頭痛、全身性リンパ節腫脹、肝脾腫大などを特徴とする疾患で、接吻などにより唾液を介する感染を受ける。ヘルペス科の DNA ウイルスに属する EB ウイルスによる感染症である。(○)
- C 糖原病 Ia 型 (von Gierke 病) は常染色体劣性遺伝で、グリコーゲンが肝臓や腎臓の近位尿管に異常に蓄積するもので、生後数か月から肝・腎腫大を認めるが、肝硬変の合併はなく門脈圧亢進症を伴うわけではないので脾腫大は認めない。(×)
- D ジョーシェ
Gaucher 病は常染色体劣性遺伝によりリソゾーム分解酵素の β グルコシダーゼの